

学校教育目標	・みんなと協力する子 ・自分の力で考える子 ・心身ともに健康な子 ・人との関わりを大切にする子
目指す学校像	・一人ひとりの児童が瞳を輝かせて活動する学校 ・教職員が常に学び続け、やりがいを感じる学校 ・保護者や地域とともに歩む学校
重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現 2 児童の自己成長をサポートする発達支持的生徒指導の推進 3 家庭、地域、学校が強い絆で結ばれた「みんなで作る みんなの与野西北小学校」の推進 4 児童の Well-being の基盤となる安心・安全な教育環境の整備 5 教職員の資質向上と働きがいのある職場の構築

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				年度評価		学校運営協議会による評価	
		年度目標		年度評価		年度評価		実施日令和8年2月12日	
		現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
学びの質の向上に関する取組	1	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度全国学力・学習状況調査の学力に関する調査は、全国の平均と概ね同水準である。 校内研修で「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の研究に取り組んでいる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の ICT 活用の使用頻度は上がっているが、効果的な活用については、研究の必要がある。 児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、更なる授業改善に取り組む必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの推進 ICT機器の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」を校内研究で推進する。 アウトプットを意識した授業改善を進め、児童の主体的・対話的で深い学びを推進する。 1人1台端末の効果的・効率的活用について、研修等で最新の情報を共有し、授業で実践する。 クラウドを活用した学習活動を行い、児童の主体的な学びを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の研修に係るアンケートで、肯定的評価が8割以上となったか。 学校評価の授業に関する質問において、肯定的回答が8割以上となったか。 「学びの指標」のICT関連のアンケート結果が昨年度を上回ったか。(R6:3.12) 学校評価においてICT関連に係る肯定的評価が9割以上となったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の研修：100% 授業に関する質問：90% 今年度は、11月28日授業研究発表会があり、全教職員が共通意識をもち、授業の質の向上に取り組むことができた。アウトプット型の授業も定着してきている。 学びの指標：3.10 学校評価：95% 1人1台のタブレット端末が日常的な文房具として定着し、児童のICTスキルも上がっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は校内研究のテーマを新しく設定し、今年度の実績を踏まえて、さらに学びの質の向上を目指していく。 アウトプット型の学習は定着してきたので、こちらも継続し、質の向上を目指していく。 次年度は、タブレット端末がiPadに代わるため、校内研修を行いながら、効果的な活用を研究していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びのスタイルが確立されてきて、主体的・対話的な学びができてきたことは、これからの発展に期待が持てる。 教員同士が授業の参観時間を確保し指導について協議し、研修を深め授業改善ができたことは大きな成果である。 ICTの活用が進められ、教員・児童の満足度は高くなっているが、個々の学力に結びついているのでしょうか。
		<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査の質問「学校に行くのが楽しい」「自分には、よいところがあると思う」への肯定的回答の割合が、全国や県平均と比較すると、高い水準である。 「いじめは絶対に許さない」を学校の約束として、いじめ撲滅に取り組んでいる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての児童が安心して過ごせる環境を整備するための組織的な取組の強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達支持的生徒指導の推進 いじめを許さない学校風土の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートや日頃のコミュニケーションを通して、児童理解を深め、組織的な支援・対応を行う。 全ての児童のよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えるように働きかけを行う。 年間を通して、「いじめを許さない」学校風土を醸成していく。 6月、10月のいじめ撲滅月に、児童会を中心に、児童がいじめを考える活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価において生徒指導・教育相談に係る肯定的評価が9割以上となったか。 発達支持的生徒指導を推進するために、組織的に指導・対応を行うことができたか。 学校評価におけるいじめ・人権教育に係る肯定的評価が9割以上となったか。 児童会が主体となって、アイデアを出しながら、クイズや寸劇等がいじめ撲滅に向けた活動を行うことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価：95% 教職員研修等を通して、児童理解を基本とした生徒指導・教育相談に対する教職員の意識が高まった。 担任だけではなく、学年の教員や組織で指導・支援を行うことができた。 学校評価：96% 児童会活動：6月、10月に実施 児童会が主体となって、アイデアを出しながら、クイズや寸劇等がいじめ撲滅に向けた活動を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人ひとりに寄り添った指導・支援を実現するためには、教員の意識やスキルの向上だけでなく、子どもと関わる時間の捻出が最大の課題となっている。業務改善を進める必要がある。 教職員によるいじめ未然防止対策、早期発見・早期対応を徹底することに加えて、児童が自ら考えて行動できるような活動を通して、いじめを許さない学校風土を醸成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> これからも「いじめは絶対に許さない」の約束で子ども自ら考えて取り組んでほしい。 教職員が学年や組織で指導・支援できていることが素晴らしい。 教育相談、読書活動、みんなで作る与野西北小学校等は、自己成長や自分の良い点に気づくができる取り組みである。 学校便りにも子どもや家庭への思いなど学校の姿勢が伝ってくる。 いじめた子へのサポートも必要。
地域づくりに関する取組	3	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 八王子中学校との合同学校運営協議会で、9年間を見通して、子どものエージェンシーを育むための熟議が行われている。 「みんなで作る みんなの与野西北小学校」を合言葉に、保護者、地域と連携が図られている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の参画意識を育む児童参加型コミュニティ・スクールの実現 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の課題解決に向けた学校運営協議会との連携 児童の参画意識を育む児童参加型コミュニティ・スクールの実現 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクールの活動について、学校便りや学校ホームページ、懇談会等の機会を活用し、保護者、地域への一層の周知を図る。 学校運営協議会での熟議により、学校の課題解決に向けた実践を行う。 教職員・児童の参画意識を育む学校運営協議会の在り方について、一層の研究を進め、実践する。 児童が学校運営協議会に関わる機会を通して、参画意識を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価において「みんなで作るみんなの与野西北小学校」に係る肯定的評価が9割以上となったか。 学校運営協議会において、学校課題について熟議を行い、協働的な活動を行うことができたか。 児童が学校運営協議会に参画し、熟議を行うことができたか。 学校評価において、コミュニティ・スクールに係る肯定的評価が9割以上となったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価：98% 学校運営協議会：登下校見守りボランティア募集のポスター作成・掲示を実施 安全・安心な登下校について、熟議を行い、活動に繋げることができた。 学校評価：96% 学校運営協議会での熟議や児童会の参画により、児童のエージェンシーが育まれ、ボランティアへの参加が増加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、市教委研究協力校として充実した活動を行うことができた。次年度からは、実績を踏まえ、会議数も減らすため、学校運営協議会の在り方を検討する必要がある。 児童の参画やボランティア活動を推進するためには、児童が参画・参加しやすい体制を整備する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクールの活動が充実してきたように思います。 今後も地域の方々の熱い思いを受け止め、活かしながら、派手ではなくても1つ1つの活動を大切にしたい。 児童を見守る具体的な取組ができたことは大きな成果である。 登下校の安全を確保するため、もっと保護者が関わるシステムが必要。自治会役員では限界がある。
		<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 経年劣化による施設の老朽化が見られるが、定期点検や日々の点検を実施し、安全な環境が保たれている。 校内の緑化整備が行われ、緑豊かで四季折々の花々が咲く花壇が整備されている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校施設の定期的な点検を確実にし、破損箇所や不良箇所等については、迅速に修理、対応する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全な教育環境の整備 児童の情操を育む豊かな環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な安全点検を確実に実施する。また、日常的な点検を行い、危険箇所破損箇所を把握し、即時対応を行う。 児童が行う美化・清掃活動や校内緑化運動の充実を図る。 地域との連携、ボランティア活動への参加等を通して、児童の情操を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月安全点検を行い、危険箇所等を把握し、即時対応することができたか。 修繕が必要な箇所について、関係機関と連携し、安全な環境を整えることができたか。 花いっぱい運動や落ち葉拾い等、児童が参加し、豊かな環境を整備することができたか。 学校評価において、美化活動・清掃活動に係る肯定的評価が9割以上となったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検：定期点検、日常点検実施 南校舎屋上雨漏り修繕実施 毎月の定期点検等により危険箇所を把握し、迅速に対応することで、安全な環境を整えることができた。 児童参加：ボランティアとして多数参加 学校評価：97% 校内放送等で児童にボランティアを呼びかけたところ、花いっぱい運動や落ち葉拾いに、多くの児童が参加し、楽しく活動ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校舎の老朽化が見られるため、日常的な点検を行い、必要に応じて関係機関と連携しながら対応に当たる必要がある。予定されていた、リフレッシュ工事は、令和16年度に延期となった。 今年度始めたボランティア活動を今後も継続し、ボランティア活動の様子を紹介するなど、より多くの児童が参加したくなるような学校風土を醸成していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全な教育環境の整備に学校関係者、地域(自治会、青少年育成会)が協力し実施している。 ボランティア活動に多くの児童が参加し、みんなで大事に校内の環境を整えているのが素晴らしい。 児童が頑張っていると保護者や地域も「一緒に」と思ってくれる。 体育館や特別教室へのエアコン導入・設置による教育環境整備を進めてほしい。 老朽化による修繕はきめ細かい対応で安全を確保してほしい。
教職員のキャリア形成に関する取組	5	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の研修意欲が高く、公開授業、研究授業を通して、授業スキルを高め合っている。 高学年教科担任制を含め、全学年において学年内交換授業等を実施し、専門性を高めている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 校内だけでなく、指導者を招聘するなど校外からの指導・助言により、一層の授業力向上を図る必要がある。 学校DXを進め、教職員が本来業務に集中できる体制を構築する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修や校内OJTによる、教職員の指導力向上 「量から質へ」教育活動の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会・研究協議会を開催し、校内研究の成果をまとめ、発表を行う。 「挑戦と成長」を合言葉に、自由な発想で、新しい授業の在り方について研究を進める。 教科担任制・学年内交換授業を行う体制を整え、OJTを推進する。 教育活動を見直しや業務改善を推進し、教育の質の向上を実現する。 学校DXの推進し、会議内容の精選、会議の在り方の見直し等を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会を開催し、指導者による指導や参会者との協議を行い、校内の指導力を高めることができたか。 教職員が指導力の向上を実感することができたか。 校内研修や日常的なOJTを通して、教職員が専門性を高めることができたか。 教育活動の見直しを行い、10企画以上の業務改善を実現することができたか。 教職員が、業務改善が進んだと実感することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会：3教科の授業を発表 研究発表に向け、公開授業を行ったり、研修会を行ったり、学年内交換授業を行ったりして、教員の指導力を向上させることができた。 教職員へのアンケートでは、89%の教職員が成長を実感できたと回答している。 業務改善：10企画以上で実現 教職員89%が実感 4月当初に今年度の方針を全教職員で共通理解を図り、常に「量から質へ」を意識して教育活動を行うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は研究発表という共通目標が明確にあり、全職員が一丸となって研究に取り組むことができた。次年度も、研究の方向性を明確にし、取り組んでいきたい。そのためには、本校の学習に関する課題を明確にし、その解決に向け研究を進めていきたい。 高学年の教科担任制をはじめ、中・低学年でも部分的な交換授業等を行い、OJTを進めながら、教材研究の時間を確保し、授業力の向上を目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化や学校の安定が先生方の研究に向かう前提条件となる。先生方が無理をしすぎない程度に、新しい発想を生かし、充実してほしい。 学校が「ブラック」と言われたいように先生方の負担を減らす努力を期待する。 教職員が生き生きと働く意識と工夫が必要である。 教職員の方々に研修欲、児童に対する日々の姿勢などに向上の様子が現れ、心弾む喜びを感じる。 教員間のコミュニケーションがよく取れている様子が、量から質への取り組みが感じられる。

